
はじめに

社会福祉法人よつかいどう福祉会
理 事 長 金 室 修 平

今年度を振り返りますと、4月から8月までは『特定非営利活動法人はちみつ』として運営し、9月からは『社会福祉法人よつかいどう福祉会』（以下、よつかいどう福祉会）として事業を運営致しました。年度途中からの生活介護事業のスタートがスムーズに行えたのも、利用者さんやご家族、そしてこれまで支えてくださった皆様方のおかげです。この場をお借りして心から感謝申し上げます。

よつかいどう福祉会は、『生活介護はちみつ』と『日中一時支援事業』を、令和4年9月から引き継ぎ運営しております。新型コロナウイルスの感染症が未だ落ち着かない状況ではございますが、影響も少なく運営できたのは、これもまた皆様方のご協力のおかげでございます。私たちは、これまで亀崎と物井に別れて活動をしておりましたが、9月からは、たかおの杜に引っ越しをして、賑やかに過ごしております（下記、図1参照）。施設の周りには大きな物流倉庫やクレーン車などの修理工場がありますが、遊歩道がある大きな調整池があり、クマガイソウという絶滅危惧植物が生息しているなど、のどかでとても素敵な場所です。また、同時に『相談支援事業所あわい』を開所致しました。『あわい』という名称の由来は、漢字の『間』（読み：ま、あいだ、あわい）からきております（あわい：人とひとが向き合うあいだという意味があります）。相談支援をする上で、人とひとの間を大切にしたいという想いを込め名付けました。名に恥じぬよう支援していきたいと思っております。契約者数は、少しずつ増えてはおりますが、今後も増やしていくことが課題のひとつです。

現在、グループホーム（＝GH）の建設計画を進めている段階です。これは、当施設に通っている利用者さんの年齢や四街道市内に住む障がいがある方たちの年齢状況をみても、必要な事業です。市内外の GH 数は、数字上では増えているのですが、『質』が伴わなければ絵に描いた餅にすぎません。利用者さんもお家族も安心して暮らせる場（GH）が必要なのです。来年度中には建設に着手できればと考えております。

利用者さんも職員もここでの生活にだいたい慣れてきたところで、四街道市と福祉避難所の締結をおこないました。災害時でも安心して過ごせる場所、福祉避難所としても機能することになります。幸いこの場所は、水災害は起きづらい土地であり、地盤も固く、鉄骨造り平屋建ての地震に強い建築設計になっております（亀崎の建物も地震に強い建物でした）。近い将来、地震などの災害は起きると言われておりますが、備えあれば憂いなしというように、十分に訓練等を行い備えていきたいと思っております。

今年度の事業報告のテーマは、『新しい場所での利用者さんの姿』をテーマに報告致します。これまで、2つの事業所に分かれて活動しておりましたが、たかおの杜に引っ越しをしてからは、2つの事業所が合わさって、1つの事業所になりました。色々な意味で新しい生活環境の中での利用者さんたちの姿には、とても逞しさが感じられました。現在3

5名定員ですので、3つの部屋（※部屋＝ホーム、家という意味で使用しています）に分かれて過ごしております。各部屋（各ホーム）の名称は、以下になります。図1参照

① 春のいろ ② 虹のもと ③ 花あかり ④ 黒のビロード（※令和5年度スタート）

これら4つのホームは、生活する上での**基礎集団**となります。私たちも家から仕事や学校などに行くように、自分の家（居場所）があることで、安心した暮らしができるのだと考えております。特に、私たちは、一人ひとりの居場所づくりに重点を置いて行ってきました。これまでの賜物でしょうか、各ホームでは笑い声が絶えません。そんな、利用者さんたちの姿を報告できたらと思っております。

生産活動では、『木工・箒』、『織物』、『清掃』の3つに分かれております。『木工・箒』、『織物』はこれまでおこなっていましたが、清掃は9月から新しく創設された仕事です。各仕事の名称は、以下になります。図1参照

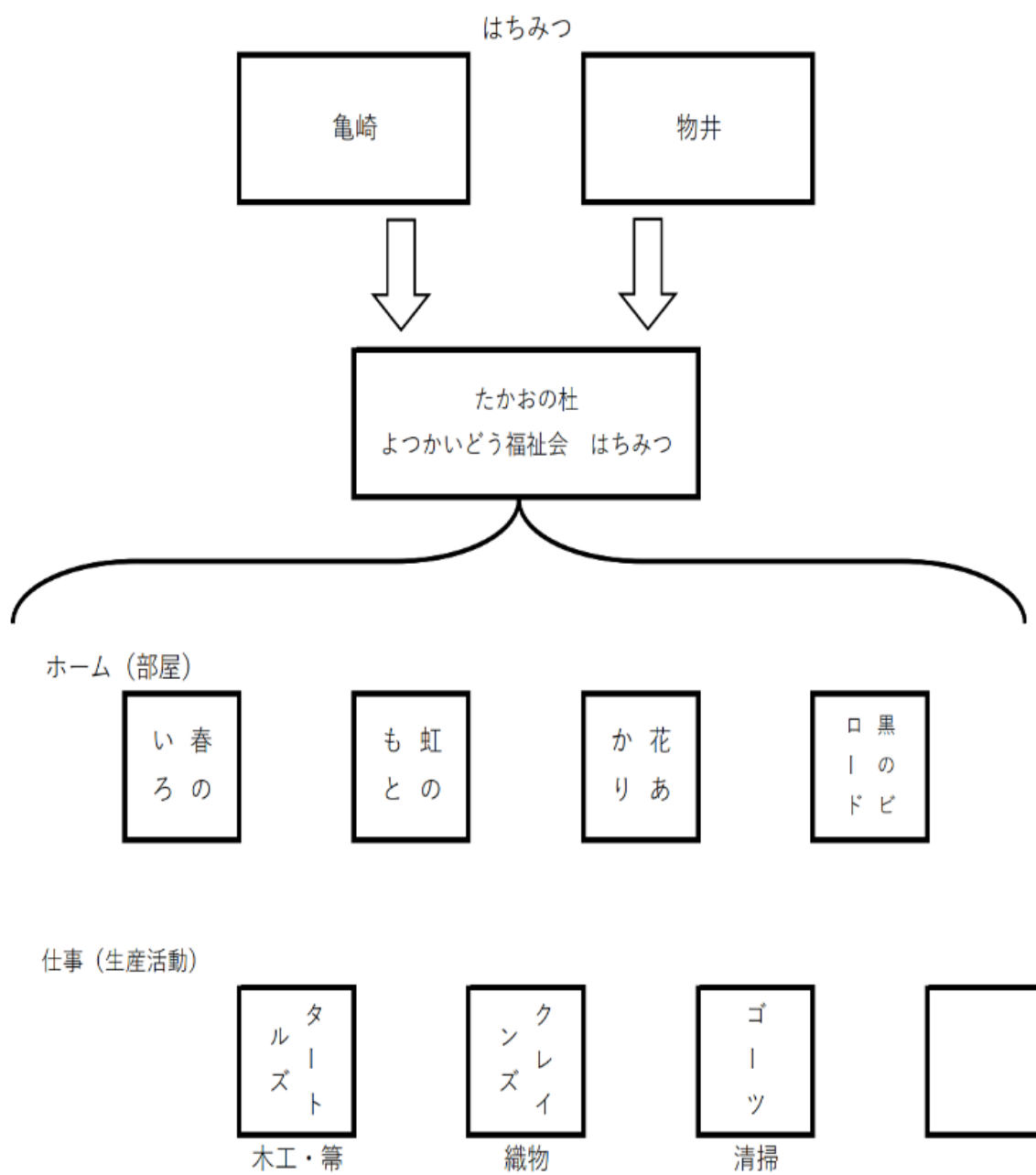
① 木工・箒・・・タートルズ ② 織物・・・クレインズ ③ 清掃・・・ゴーツ

各仕事に分かれて活動します。自分たちがどの仕事に所属するのかは、本人の特性や本人の意思決定を大切に決めております。「私は、この仕事がしたい!」と、はっきり伝えてくれる姿もみられ、そんな姿に職員一同感激したことを今でも覚えております。私たちが目指す『はたらく集団』づくりの土台にも繋がるように思います。

サークルについては、現在3つのサークルをおこなっております。利用者さんは、その日や前日から、自分がどのサークルに行こうかと悩んでいたりと、すでに決めていたり様々な姿を見せてくれています。新しく創設されたサークルもあり、とても盛り上がりを見せております。このように、利用者さんの日常を豊かにしていけるよう、今後とも取り組んでいきたいと考えております。

さて、上述致しましたが、社会福祉法人として歩み始めたわけですが、新型コロナウイルス感染拡大やウクライナとロシアの戦争など、ここ数年の間で私たちは様々な問題に直面しております。時代や社会が流動的に変化している一方、私たちも柔軟な対応や発想が必要のように思います。これからの福祉の在り方などについても同じようなことが言えると思います。私たちのような社会福祉法人の『自己実現』を考える時、『自己実現』＝『創造』と捉える必要があり、そしてその時に『自己実現』とは『他者実現』とともにある『自己実現』として把握しないといけません。※糸賀一雄『福祉の思想』より少々哲学的ではありますが、私たちの『自己実現』とは、まさに利用者やそのご家族、地域などの豊かな生活を『創造』していくことであり、『自己実現』は、利用者やそのご家族、地域といった『他者実現』とともにあると把握していく必要があります。今から約50年前、糸賀一雄氏（1967）が障がいがある方たちの自己実現について説いた『福祉の思想』が、現代の福祉、社会にとって改めて必要なのだと思います。そんな歴史や想いを引継ぎ、私たちが目指している『はたらくを ちいきの みんなと つくる』という合言葉は、とても大切なものです。それは私たちの使命に繋がり、そして実現したい未来へと発展していくのだと思います（特定非営利活動法人はちみつから引き継ぎ社会福祉法人よつかいどう福祉会の理念については、図2をご参照ください。）。すべての人が主人公になるような社会を建設していくという糸賀氏や先達の願いを、私たちが引継ぎどのように実現させていくのかが、今後の福祉の課題であるのだと考えます。

図 1



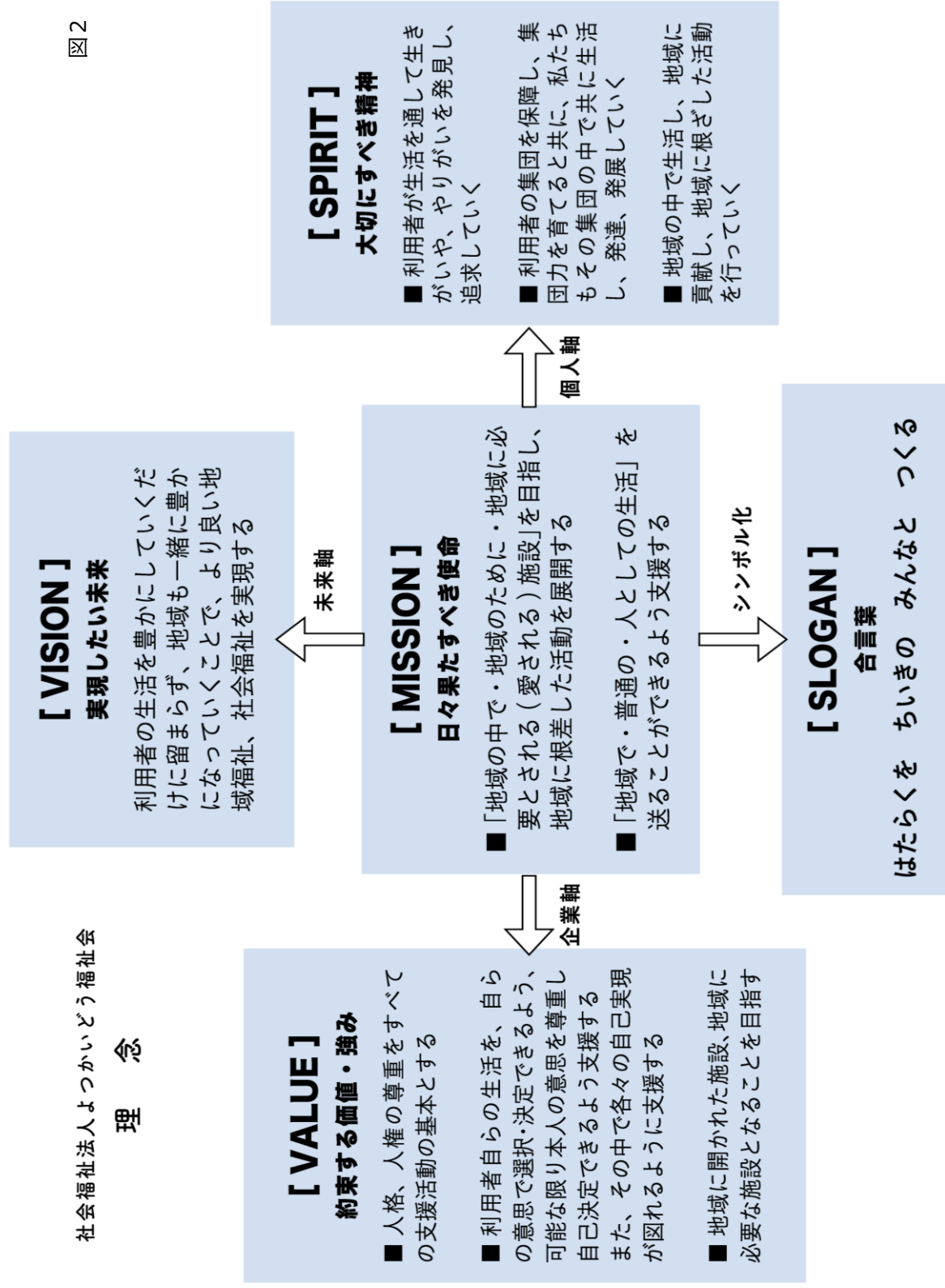


図 2

01 | ホーム 活動

1-春のいろ

堀柊人 小島美海 石田政枝

渡邊昌代 山畑遼侑 渡邊京子

春のいろは、男性6名女性5名の計11名で始まりました。新しい環境になり、変化が苦手な方は不安もあったと思います。しかし、今まで『はちみつ』で過ごしていた仲間と一緒に移ったこともあり、不安を分かち合い、安心して過ごすことが出来たのだと感じます。そんな中での、仲間との関りや気持ちの変化をエピソードを交えてご報告いたします。

No.1 お助けマン参上！！

お手伝いを頑張ってくれる Aさんは、周りの事によく気が付いてくれています、とても恥ずかしがり屋です。Aさんが積極的に連絡帳を利用者さんに渡してくれたり、みんなにお茶を配ってくれたりと素敵な姿が見られました。そんなエピソードをご紹介します。

恥ずかしくて気になっていても、行動に移すことが難しい Aさん。職員に「助けて」と声をかけてもらうのを待っています。最初は、職員が Aさんに「Aさん助けて」とお願いをしたのが、きっかけでした。お願いをしていくうちに『お助けマン』という役割を担ってもらう事を提案しました。Aさんは快く引き受けてくれました。『お助けマン』になることで Aさんは自信がついたようです。それからは、率先して職員に「お手伝いしようか？」と助けに来てくれるようになりました。

Aさんは、恥ずかしがり屋ですが、人のお世話をしてくれる優しい方です。はじめは職員の「助けて」というお願いがきっかけで、始まった『お助けマン』でした。今では、職員だけではなく、仲間からの「ありがとう」がきかれ、さらに自信に繋がっているようです。

No.2 仲間っていいな

『はちみつ』の仲間の中には、人と関わるのが苦手な方もいらっしゃいます。しかし、いつも同じ空間で過ごしている仲間と関わるが多くなったことで、安心感が生まれみんなの輪に入ることが出来るようになったエピソードをご紹介します。

人と関わるのが得意ではない Bさん。いつも、絨毯の上で、とても居心地が良い様で、一人の時間を大切にしています。

『はちみつ』では、毎日帰りのミーティング前にちょっと一息のティータイムがあります。注文担当の Cさんは Bさんのところに行き、「何を飲みますか？」と聞きに行ってくれ、注文の飲み物をもっていってくれます。そんな時、Bさんが、大好きなキャラクターをタブレットで見ていたところ、Cさんもそのキャラクターが好きだったようで、キャラクターの話で意気投合していました。Bさんと Cさんは、共通の話題ができたことで、楽しそうな姿が見られるようになりました。

Bさんは、集団の中にいることが苦手だと思っていました。しかし、会話を楽しんでいたことで、一緒に居たいという安心感が芽生えてきたのではないかと思います。Bさんは、帰りのミーティングになると、絨毯が敷いてある場所からみんなが座っているテーブルの場所へ移動して参加してくれています。仲間に自分から話しかけている姿もあり、自分の居場所が見つけれられたのだと思います。

No.3 仲間がいれば大丈夫

春のいろは、たかおの杜に引っ越しをして、昼の生活からテーブルと椅子の生活に代わりましたが、ソファや靴を脱いでゆっくり横になれる絨毯の空間も用意しました。それは、利用者さんが、自由に好きな場所でくつろいだり、好きなことをして過ごせるようにしたかったからです。そんな春のいろで、利用者さん同士が、声をかけあう亀崎や物井と同じような姿をエピソードを交えてご報告いたします。

月曜日の午前ウォーキングをします。Dさんは、気持ちが乗らなかったようで、ウォーキングに行かないと職員に伝えてくれていました。そんな時に、Eさんが「Dさん一緒に行こう!!」と声をかけに来てくれました。Dさんはすっと立ち上がり、Eさんと一緒に「1!2!! 1!2!!」と掛け声をかけながら笑顔でウォーキングに行くことが出来ました。それは、亀崎にいる時と変わらない光景です。

新しい場所に移っても亀崎や物井と変わらずいつもと同じ光景が見られました。それは、『はちみつ』と『つきのわ』時代からの気心知れた仲間がいる事が一番影響しているのだと思います。『あの人に言われたからしょうがないな!』『大好きな人と一緒に居たい!』と思える『はちみつ』は素敵だと思います。

私たちは、利用者さんが少しでも早く新しい生活に慣れていってもらえたらと思い、居場所作りを工夫し設定しました。しかし、仲間の存在や関りが一人ひとりの居場所に繋がっているのだと改めて思いました。

まとめ

新しい環境になることで、私たちは利用者さんが安心して過ごせる『居場所作り』を意識して取り組みました。利用者さんの中には、新しい場所が苦手な方も沢山います。そのため、みんなが安心して過ごせるまでには、少し時間が掛かるのではないかと考えていました。しかし、『気心知れた仲間がいるから大丈夫』と思えたことで、とてもスムーズに新しい環境になれることができたのだと思います。

今後も『仲間がいれば大丈夫』と安心できる居場所作りを意識していきます。そして、楽しく過ごせる環境づくりに努め、仲間意識を高めていきたいと思っています。



01 | ホーム 活動

2-虹のもと

森川幸治 鈴木尚子 北林智子
梅田かおる 飯野洋平 宮本英恵

「虹のもと」は利用者11名・職員6名でスタートしました。朝のミーティング、体操、活動、帰りのミーティング・・・引っ越し前と同じプログラムでも、環境が変わり、みなさん緊張している様子が見られました。「虹のもと」でも、はじめは各自気持ちが落ち着ける好きな場所を手探りしている状態でした。

ひと月ほど経った頃から「ここが私のホームだ」「この方は同じホームの仲間だ」という感覚で過ごせるようになり、徐々に集団としてのまとまりが出来てきたように思います。

大きなターニングポイントは運動会でした。この日を境に、「虹のもと」という集団が、ホームとしてまとまり始めました。そして、日々のホーム活動で、仲間同士影響し合ったり、仲間を助けたり、力を合わせたりする姿が自然と見られるようになったのです。

エピソード1、2では団結のきっかけとなった運動会での様子をご紹介します。ホーム活動の中でも特に「調理」は、みんなの団結が必要となります。エピソード3では、運動会後の調理で見られた様子をご紹介します。

No.1 「虹のもと」の「団結のもと」

新しい施設で行う初めての運動会。ホーム対抗と聞き、「自分たちのホームが優勝するぞ!」と意気込みました。まず、必須なのは応援グッズです。プラカード、ポンポン・・・他のホームの分もつくりました。次に、競技が発表されると、練習し、みんなの希望を聞いて、選手を決めます。運動会へ向けて士気が高まる中、職員の思いも寄らない出来事が起こりました。

運動会が近づいたある日、Aさんから「“ばっち”をつくりました」とお話がありました。

「・・・ばっち?!」職員は想像がつきません。

するとAさんが、モールでつくられたオーナメントのような飾りを見せてくれました。「これは何ですか?」と聞くと、Aさんはその飾りを胸にあて「これです」というアクション。「"バッチ"ですか!」さらによく見ると虹のものと人数分ありました。なんとAさんは、運動会のために、みんなにお揃いのバッチを作ってくれたのです。「これをつけて運動会に出るという事です

ね!」と言うと、Aさんはにっこりと笑いました。職員は留め具を持って来て、Aさんがビーズをつけて完成しました。

当日、虹のものと仲間の胸や肩に光るバッチは団結の素(もと)となりました。

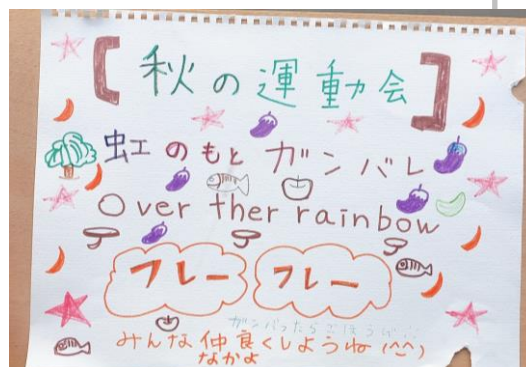


Bさんは、運動会当日はご予約があり、欠席が決まっていました。ご自分でも「当日は私は居ません」と言って、無関心な様子でした。

しかし、ポンポン作りは好きな作業だったようで、段々と手が動き、運動会に興味を持ってくれるようになりました。風船をうちわで扇ぐ競技の練習中、なかなか上手に風船が上がらない時には、誰よりも力一杯うちわを扇ぐBさんの姿がありました。

運動会前、最後の日の事です。Bさんがおもむろに何かを描きはじめ、「できました！」と見せて

くれたのは「虹のもとガンバレ！フレー！フレー！」という応援メッセージ。はじめ消極的だったBさんでしたが、運動会に向けて頑張っている仲間へかいてくれたのです。職員は早速木の板に貼り「これで応援して、絶対優勝します！」と言うと「頑張ってください！」とにっこり笑顔のBさん。Bさんの応援カードも団結の素(もと)となりました。



運動会当日、虹のもととは、お揃いのAさん特製バッチをつけ、Bさん特製応援カードを掲げ、奮闘しました。個人得点が入る競技よりも、力を合わせるチーム競技で2つとも1位になりました。特に練習で苦戦していた風船パタパタは圧勝でした。惜しくも優勝は逃しましたが、虹のものと仲間からMVPが選ばれたのは大変嬉しい事でした。こうして運動会をきっかけに、虹のもととは団結して行ったのです。

No.2 たこ焼き作り

以前の調理は、進行役の利用者さんと職員で候補のメニューを事前に2つに絞り、ミーティングでその2つのプレゼンを行って、みんなが投票して決めるという形でした。

虹のもとでは、みんなで食べたい物の意見を出し合って、調理のメニューを決める形にしています。皆さん食べたい物が沢山あり、自由に意見が飛び交います。話し合いの結果、11月のメニューはたこ焼きに決まりました。

たこ焼き作りでは、具を切る、生地作るなど分担して進めていきました。たこ焼き作りで一番難しく、また一番楽しいのは、「ひっくり返す」工程です。皆さんこれがやりたくて、やりたい人から順番にやってみますが、なかなか上手にひっくり返せませんでした。しかし、Cさんの番が来て、やってみると、職人の様にクルックルと、とても綺麗に生地を返していきます。その姿を見ていた仲間たちは、『上手！』『綺麗！』と感心していました。そして、Cさんのやり方を参考に、それを真似するように再挑戦してみると、上手にひっくり返せるようになりました。そのお味は・・・格別でした！



Cさんは手先が器用な方です。引っ込み思案であるため、「ひっくり返す」という一番楽しい工程にも遠慮がちでしたが、順番が回って来て、その力が発揮されました。この日の調理では、みんな、自分の番が終わったらおしまいではなく、仲間がひっくり返すのを見守っている様子が印象的でした。苦戦する仲間を応援し、上手にひっくり返すと拍手が起きました。運動会で出来た団結の素（もと）があったからこそその場面でした。

まとめ

虹のものは、今も、日々、各自のペースを尊重し合い、助け合いながら、力を合わせる時は集中するなど、まとまりを保っています。ホームとしてまとまっていく過程にあった団結の素（もと）、それは仲間を想う気持ちです。気持ちは見えませんが、お揃いのバッチや応援カードというアイテムや、「ありがとう」「がんばれ!」といった言葉、笑顔に表されて伝わります。そして楽しい・嬉しい・あたたかい・ホッとする雰囲気がつくられ、ホームとして団結してきたのではないのでしょうか。これからも仲間を想う気持ちに寄り添いながら、過ごしていきたいと思います。

01 | ホーム 活動

3-花あかり

高田有啓 山本鮎実 嶺岸みゆき
北原晶子 緑川景太

2022年9月に新しい施設への引越しを経て、3ホームに分かれることとなり、その1つのホームとして『花あかり』での活動がスタートしました。初めの頃は利用者も「どんなところなのだろう?」「どんなホームになるのだろう?」といったワクワクと緊張でいっぱいのお気持ちであったかと思います。現在はそれから半年ほどが経過し、『花あかり』の10名の仲間たちは少しずつホームに馴染んできている様子です。

ホーム活動で大切にしていること

私たちがホーム活動で大切にしていることとして、「居場所づくり」や「仲間と触れ合う機会を増やし、関係を深めること」が主に挙げられます。これは以前から大切にしていたことですが、引越し後も変わることはありません。利用者が落ち着き、安心することができる空間を一緒につくっていくことで、他の集団でも頑張ることができ、新たな良いところを発見することができるのだと思います。

No.1 仲間が「あかり」を灯してくれた

上記で述べましたが、ホーム活動では「居場所づくり」や「仲間と触れ合う機会を増やし、関係を深めること」を大切にしています。それらを大切にし、『花あかり』のホームで過ごしていく中で仲間の思いやりや助け合い、利用者の良いところが見られたのでエピソードとともに紹介します。

新しい場所が苦手な A さん。引越しを終え、新しい施設で生活することとなりましたが、なかなか施設の中に入ることができませんでした。そこで、仲間たちが A さんに優しい声をかけることで、初めは玄関、次に廊下、そしてホームの前へ、徐々に時間をかけて『花あかり』の部屋へ近づいていくことができてきました。しかしながら、部屋の中にはあと 1 歩踏み出すことができません。そこで A さんが落ち着けるように、部屋の中にテントを張り、自分だけの空間をつくってみることにしました。それに加え、改めて仲間たちが声をかけてみると、いつの間にか部屋の中にもスムーズに入ることができるようになりました。

はじめは自分の居場所が分からず、不安が大きかった A さん。周りの仲間がいたからこそ、不安を払拭し、自分の落ち着くことのできる居場所を見つけることができたのだと思います。また、それによって仲間たちへの信頼も今まで以上に増し、関係が深まっているのではないかと感じています。このようなことから、改めて私たちに集団において仲間は不可欠であるということや、居場所づくりの大切さを気づかせてくれました。今後もそれらを意識して日頃のホーム活動に取り組んでいきたいと思っています

No.2 さらに広がる仲間の輪

引越しを終え、徐々にホームの仲間とも緊張が解け、コミュニケーションが増えてきました。仲間と触れ合う機会が増えることにより、さらに関係が広がり、深くなっていきます。それを踏まえて、昼休みのエピソードとともに紹介したいと思います。

野球が大好きな B さん。昼休みはキャッチボールをしたくてたまりません。そこで、施設の隣が公園になっているので、職員と一緒にキャッチボールをすることとなりました。はじめは B さん 1 人でしたが、B さんが帰りのミーティングなどでキャッチボールの楽しさを『花あかり』の仲間たちに共有し、「みんなも一緒にやろう！」と声をかけることにより、日が経つにつれてキャッチボールに参加する利用者也増えてきました。今ではさらに輪が広がり、『花あかり』の枠を越えて、『春のいろ』や『虹のもと』の利用者も一緒に楽しんでいるほどです。

一人の利用者の好きなことを仲間が知りそれに一緒に取り組むことで、楽しさが倍になり、さらに輪が広がることを感じました。また、輪が広がることで利用者一人ひとりの楽しみが増え、普段の生活も充実してくるのではないかと思います。これからも「仲間と触れ合う機会を増やし、関係を深めること」を大切にしながら過ごしていきたいと思っています。

No.3 塵も積もれば「おはようございます」

現在では新しい環境になり約半年ほどの月日を経て、仲間同士でも楽しそうにコミュニケーションをとる姿も多く見られるようになってきました。それに伴い、コミュニケーションの取り方なども開所当時と比べると変化しています。その様子をエピソードとともに紹介したいと思います。

新しい環境になってから、最初は緊張していたからか、あまり他の利用者と関わる事が少なかった C さん。こちらから「おはよう」と話しても「…」となる時もありました。それでも、他の利用者は C さんに対して、毎日欠かさず挨拶をしてくださっていました。すると、ある日から「おはよう！」と声をかけると「うん」と挨拶を返して下さるようになりました。それからまた月日が経ち、今では「おはよう！」と挨拶をすると「ございます」と返してくれるようになりました。

新しい環境に慣れてきたこともあると思いますが、花あかりの仲間たちが小さなコミュニケーションを日々大切にしていたからこそ、C さんがホームに安心できる居場所ができたのだと感じました。それによって、コミュニケーションの幅も広がり、新たな発見に繋がっていくのだと思います。最近では C さんのホームの利用者だけではなく、他のホームの利用者とも挨拶を交わすようになってきています。今後も仲間とのかかわりを大切にし、今以上に心からはちみつでの生活を楽しむことができるようなホームにしていきたいと思っています。



まとめ

『花あかり』での生活がスタートし、まだ半年しか経過していませんが、利用者同士での思いやりや助け合いが多く見られています。そのような日々を一緒に過ごしていると、集団生活を行う上での仲間の存在の大きさや安心することのできる居場所の必要性など、利用者から多くのことを学ぶことができました。今後も「居場所づくり」や「仲間と触れ合う機会を増やし、関係を深めること」に限らず、小さなコミュニケーションも大切にしつつ、新たな良いところを見つけていきたいと思っています。そして、素敵な仲間たちと素敵な『花あかり』にしていきたいと思っています！



02 | 生産活動

1-タートルズ(木工・箒班)

渡邊京子 宮本英恵 森川幸治
鈴木尚子 梅田かおる 高田有啓

9月からたかおの杜に移転して、木工・竹箒班は利用者さん13名・ボランティア2名・職員6名で木工製品、亀崎竹箒作りの生産活動を行っています。コロナ禍ではありましたが、販売会が昨年度より増えて来た事で、販売会に向けての生産意欲も上がり、お客様に喜んで頂ける様に製品づくりに励んでいます。今年度の事業報告では、「新しいはちみつになってからの姿」をテーマに利用者さんの仕事に取り組む様子をエピソードを交えて報告します。

No.1 側楽

四街道市で配られているちいき新聞に亀崎の竹箒が紹介されてから注文が増え、竹箒づくりを行う時間が増えました。竹箒作りを楽しむAさんの様子を紹介します。

手先が器用なAさんは、今までは作業をすばやく終わらせてしまい時間を持て余していました。しかし、たかおの杜に来て竹箒作りを行う時間が増えたことにより、笑顔を見せ楽しそうに本人と職員の椅子を並べ、職員の横に座り竹箒作りに必要な材料・工具を職員に手渡してくれます。Aさんのお陰で竹箒一本の制作時間が1時間から30分に短縮して出来る様になりました。まさに側（はた）を楽（らく）にしているAさんです。

Aさんは職員が竹箒を作っている工程を見て覚え、職員と一緒に作業を行う事が楽しかったのでしょう。竹箒づくりは工程が複数あり手間がかかる作業です。Aさんには時間を持て余すこともなく作業が出来るという事が合っていたのかも知れません。この様に利用者さんは作業している時に様々な理由で楽しく作業を行う事が出来ています。側を楽にする為にはまず自分が楽しむ事が大事だと思います。これからも、楽しく活動が出来るよう支援をしていけたらと思います。

No.2 お客さまのために ①

今年から、新たな取り組みとして千葉県で木育活動を行っている、木育コーディネーターさんと一緒に『よつつみ木』の制作を行う事になりました。赤ちゃんが使用する事を考えて製品づくりを行っているBさんを紹介します。

仲間から頼りにされているリーダー的な存在のBさんは、全ての作業をしっかりとこなしみんなのお手本となっています。そのBさんは活動時間中ずっと集中して一つの積み木を磨いていました。生産活動が終わる前にBさんは職員に「これを見て！」と言わんばかりに一つの積み木を差し出してきました。その表面はツルツルでまるで宝石の様に光り輝いていました。『よつつみ木』を依頼して頂いた木育コーディネーターさんや仲間からも「凄い！」と褒められとても嬉しそうにしていました。

Bさんは、活動で使用する物を事前に用意してくれたり、準備、後片づけを積極的に手伝ってくれたりと製品作りに対して意識の高い利用者さんです。Bさんは「この積み木赤ちゃんが使うんでしょ！」と赤ちゃんが安全に使えるようにと作ってくれています。使い手の事を考えて製品作りが出来る事は本当に素晴らしい事だと思います。

No.3 お客様のために ②

タートルズが一丸となり待っているお客様の為に、30個のカレンダー立てを包装まで完成させた場面を紹介します。

この日は、いぶき福祉会さんとのコラボカレンダーの注文分を、年内に待っているお客様に届けないといけないという状況でした。そこで、家の形のカレンダー立てを仕上げる人、製品の包装を行う人と個々に得意な作業を分担し作業を行いました。各作業を担当した利用者さんは「出来たよ〜！」と次々に仕事をこなし製品を完成させました。一日での完成は難しいと思われていましたが、年内にお客様のもとへお届けする事が出来ました。



今回、製品をお待ち頂いているお客様へ年内に届けたいという思いがひとつになり、見事に仕上げる事が出来たのではないのでしょうか。この様にお客様の為にという目標に向かい、仲間が一丸となり達成感を分かち合える場が出来たことが、今年度一番の出来事だったと思います。

まとめ

新しい環境で日々、試行錯誤しながら仕事を行っています。そして、昨年に引き続きいぶき福祉会さんとのコラボカレンダーと、新たな取り組みである千葉県木育コーディネーターさんとの「よつつみ木」づくりで製品づくりの幅も広がって来ています。また、「誰かのためにつくる」という事が生産意識の向上につながっていると思います。「はたらくを ちいきの みんなと つくる」(はちみつ)のスローガンを基に、来年度も利用者さんの得意な事を活かし、力を発揮できるよう支援をしていきたいと思っています。

01 | 生産活動

2-クレインズ(織物班)

緑川景太 北原晶子 小島美海

9月から新しいはちみつになり織物班はクレインズという名称で再スタートいたしました。新しい場所で新しい顔ぶれ、利用者の皆様は不安もあったのではないかと思います。そのような中で活動を重ねて数か月、仲間を想う姿や『やってみよう!』という気持ちを感じられる場面が少しずつ見られるようになりました。そのような姿をエピソードとともに紹介させていただきます。

No.1 みんなで助け合って

機織りは整経・箆通し・綜統通し・機織り・ポビン巻きなど様々な作業があり、難しい工程もあります。クレインズには経験者だけではなく、初めて挑戦される利用者もあり、難しく混乱することもありました。そのような時に仲間同士で助け合う姿が見られました。

初めて機織りに挑戦する Aさんは分からないことばかりでした。両手両足を使って行う作業では、手足の順番が逆になってしまうことや糸が途中までしか通っていないなど、なかなか上手くできません。そのような時『僕がやってみよう!』とつきのわの時から機織りをしていた Bさんがお手本を見せてくれました。上手に織る Bさんの姿に興味津々の Aさんは、再び機織りに挑戦しますが苦戦…。すると「こうやるんだよ!」と Bさんが優しく教えてくれました。

初めて機織りに挑戦する方は右も左も分からず混乱することもありました。そのような時、仲間同士で助け合い、思い合う姿が多く見られました。今では販売などに向けて、皆で作品作りに取り組んでおります。

No.2 出来ることが少しずつ

新しい環境になり、不安からなかなか活動に参加することが難しい方や気持ちの切り替えが難しい方もおり、どのようにすれば楽しく活動できるのだろうか試行錯誤してきました。9月から数か月经ち、初めの頃とは違う新しい姿が見られるようになりました。

横になり休まれていることが多く、なかなか活動に参加することが難しかった Aさん。数を数えることが得意であった Aさんは、職員と一緒に数を数えながら作業をすると楽しいのではないかと考え、支援を行うことにしました。「1・2・3!」と数えながら少しずつ作業に参加し始め、今では自ら織り機の側まで来てくださるようになり、「おしごと!」とおっしゃるようにもなりました。

前述のエピソードを通して、得意なことや好きなことを仕事に取り入れることで、作業に興味を持つことや活動意欲に繋がったのではないかと感じました。今後も一人ひとりに合わせた支援を行っていき、楽しい！と感じられる活動となるように取り組んで参ります。また、次のステップとしては、楽しいだけではなく利用者の皆様に手ごたえや達成感を感じていただけるように職員一同精進してまいります。

No.3 頑張りたいという気持ち

クレインズでは自分から『この作業をやりたい！』と教えてくださる時もあれば、職員から作業をお願いすることもあります。日々一緒にお仕事をする中で、一人ひとりの好きな作業や得意なこと、頑張りたいことを知ることができ、また、本当に好きなのかは分からないけれども良い表情で作業に取り組んでいるなぁと感じる場面も多くありました。ある日の活動中、Cさんはお仕事に対する気持ちを話してくれました。

途中からクレインズに加わったCさん。自分の好きなことを話し出すと作業の手が止まってしまうことがありました。それでもある時『僕、機織りを頑張りたい！』と気持ちを話してくださいました。その為、職員から時間を決めて作業に取り組んでみませんかと提案すると『そうだよ！今はお仕事の時間だよ！』と気持ちを切り替えて集中。あっという間に、そして丁寧に機織りを仕上げてくださいました。

『頑張りたい！』という気持ちを話して下さったCさん。気持ちを伝えることは簡単なことのように難しいことだと思います。心で思っても相手に伝えることが難しい方もいます。その為、楽しそうに作業をしている姿や集中している姿など、小さな変化に目を向けていく必要があると思います。利用者のまだ見たことがない姿をたくさん見られるように、気持ちに寄り添いながら楽しい雰囲気作りや集中できる環境作りに努めて参ります。

まとめ

新しい仲間達とともに活動を始めて数か月。利用者の皆様は緊張や不安を抱えながら活動をされていたのではないかと思います。はじめは活動の場に入れない方もいました。そのような中でも、仲間を思い合う姿や仲間同士で助け合いながら作業に取り組む姿が多く見られました。お互いを想うことが一人ひとりの新しい姿に繋がっているのではないかと思います。

今後も、一人一人の『頑張りたい！』『やってみたい！』という想いを大切に、様々なことに挑戦していきたいと思います。多くの経験を通して手ごたえや達成感を感じ、“仕事って楽しい！”と思っていただけるように支援をしていきたいと思います。

ひみつのおしゃれ工房様とコラボするにあたり、初めて布の重さを計り値段を決めました。その布はポーチとなり、皆で作ったタッセルを付けて、ユニバーサル農業フェスタにて販売いたしました。今後も地域の皆様の力をお借りしながら、少しずつ皆で成長していけたらと思います。



02 | 生産活動

3-ゴーツ(清掃班)

山本鮎実 石田政枝 北林智子 嶺岸みゆき
渡邊昌代 山畑遼侑 飯野洋平 堀柊人

「身体を使って汗を流す仕事は何があるのか」と考え、新たに清掃班・ゴーツが誕生しました。行政等からの仕事（官公需など）や様々な企業様等から依頼を頂けるように清掃等の技術を磨いている最中です。

今年度は送迎車の洗車とタイヤ交換、はちみつ施設内と隣にある公園の除草作業、施設内清掃と窓ふきを行いました。その他に引っ越しで出た大きなゴミをクリーンセンターや廃棄場に持っていく仕事にも取り組んでいます。

No.1 秘密道具

草取りなどは、「はちみつ」と「つきのわ」の時から取り組んでいる仕事ですが、最初は「仕事」だという認識が薄く淡々と作業をこなすだけでした。「いろいろな仕事の中でその方に合った、楽しく取り組める方法を探してみよう！」と考え、様々な道具を使用することにしました。すると、皆さんの取り組み姿勢も変化し始め「仕事」ということをより実感してくださるようになりました。道具を使用して仕事を行っていく中で、輝いていたシーンがありましたのでご紹介いたします。

秘密道具『レーキ』

A さんはお仕事大好きな方です。しかし、新しい施設では掃除をするところが沢山ありすぎてしまい、集中力が続かないことがありました。そこで、刈った草を集める作業を楽しくできないかと考え、熊手（レーキ）という道具を使うことを提案しました。A さんが身体を伸ばしてレーキを遠くに差し伸べて、思いっきり引き寄せます。すると、足元にごっそり刈った草の山が！あっちに伸ばし、こっちに伸ばしと続けているといつのまにか大きな山になりました！A さんは楽しくなってリズム良く身体を動かします。楽しく作業に取り組むようになり、集中して仕事をしつづけられるようになりました。仕事をしていて難しい時には職員に「手伝ってください」と伝えてくれたり、自分の仕事が終わると「次は何をしますか」と聞いてくれるようになりました。それ以外にも、ゴミ捨ての手伝いをするなど仕事に対する姿勢が日々変化しているように感じます。

作業の中に楽しさを見つけたことと、作業に見通しがもてるようになったことで A さんの頑張りにつながったのだと思います。そして、A さんが頑張っている姿を他の利用者さんも見ているため、今ではみんなの模範となっています。

秘密道具『草刈り機』

Bさんは元々、手で草を抜くことが好きでした。ある時、手では抜けない草があり作業が止まってしまうことがありました。Bさんに楽しく作業をしてほしいと思い、草刈り機を使うことを提案しました。広い原っぱのはじっこから順番に、Bさんが職員と一緒に草刈り機を押しながら草を刈っています。機械を使いニコニコ笑顔で操作するBさん。たくさん草が生えていた場所があっという間にキレイになっていきます。楽しくなりすぎて小走りになってしまうBさん。そこは安全第一、職員がペース配分を気かけます。刈った場所を見つめるBさんの表情は達成感や、やりがいに満ちて、明るい日差しを浴びています。職員や仲間たちから「ありがとう！」と言われてBさんも嬉しそうにしていました。今では作業中に笑顔が多くなり、作業前の説明が終わると誰よりも早く外に向かうようになりました。

自分でキレイにしたという達成感や仲間からの感謝は、Bさんにとって意欲と自信に繋がっているのではないかと思います。また「はたらく」って楽しい！と実感されているようです。今後、さらにBさんが機械を使いこなせるようになったら、公園など外部の仕事で活躍して下さると思います。

No.2 洗車、いかがですか？

今までの洗車はスポンジの代わりに古軍手を使って、利用者さんのやり易さ第一に行っていました。ゴーツでは仕事として行うことを考え、しっかりと洗えるようにスポンジと車用洗剤を使っています。

Cさんは大の車好きで洗車が大好きです。そんなCさんのある一言で新しいシステムが導入されました。
ある日、洗車に取り掛かろうとした時Cさんが「〇〇さん（職員）の車を洗車したい！」と言いました。その職員に話しをした所「ぜひお願いします！」と言われ、Cさんも嬉しそうに仕事に取り掛かります。大好きな職員〇〇さん、そして大好きな車を自分で洗える！ということで、ワクワク感でいっぱいです。いつも丁寧に洗ってくれるCさんですが、作業の中に心がこもっているようです。これをきっかけに今までは、はちみつの送迎車だけを洗車していましたが、今では職員の車も洗車するようになりました。

Cさんのアイデアで、希望した職員の車を洗車するようになりました。もちろんお金をいただいています。きれいになった車を見て喜ぶ職員の表情を見て、自分がきれいにしたことで喜んでもらえる、という実感が湧きます。誰かのために仕事すること、つまり、ただ「働く」ではなく「側楽」ことで一人ひとりのモチベーションも上がるのだと思います。

まとめ

利用者さんと職員で「私たちには一体何ができるのだろう」と模索する一年でした。一人ひとりが楽しく取り組めるような方法を探り、利用者さんの意見も取り入れて活動しています。

冒頭にも書かせていただきましたが、将来的には、行政等からの仕事（官公需など）や様々な企業様等から依頼を頂き、清掃などの活動を行うことが目標です。季節によって仕事内容が変化し、反復作業をすることもありました。その中でも利用者さん同士で声を掛け合い、高め合う姿が見られました。一人ひとりの成長だけでなく、ゴーツ自体も成長をしていると思います。

施設の隣にある公園の草取りを行った結果、令和5年4月より公園の整備を任されることになりました。これからも『地域の中で、地域のために、地域に愛される（必要とされる）』ようにみんなで協力して頑張っていきたいと思います。今後も温かく見守っていただけると幸いです。



03 | サークル

毎月2回行い、利用者の希望で選択します。いつも同じサークルへ行く方も、毎回変える方もいらっしゃいます。

造形サークルは、絵を描くことや工作など、ものづくりの好きな方が多く参加します。

スポーツサークルは、体を動かすことが好きな方が多く参加します。

新設されたボウリングサークルは、ボウリングが好きな方が多く参加されます。

各サークルとも毎回内容を工夫して活動しています。

【造形サークル】

引っ越しギリギリまで、絞り染めとシルクスクリーンを使った「はちみつ手ぬぐい」づくりや、「ふるさと祭アートパネル」制作など活発に取り組みました。それは、慣れ親しんだ亀崎とつきのわでの「思い出づくり」のような時間でもありました。

ふるさとまつりアートパネル

8/20(土) 四街道中央公園にて行われた、「四街道ふるさとまつり」会場内に市内各所から集まったアートパネルが並び、はちみつ・つきのわは3枚出展しました。





手ぬぐい

(シルクスクリーンプリント)

Tシャツくんでシルクスクリーン体験！はちみつライダーをプリントしてから、好きな色で染めました。



新施設に来て、はじめは、綺麗な建物で絵の具を使うのも躊躇しましたが、今ではみなさんのびのびと制作されています。たかおの杜は、少し散歩するだけで、落ち葉・どんぐり・ススキなどの材料が簡単に手に入り、こういった自然物は積極的に活用します。そんな自然豊かなたかおの杜で、ものづくりに目覚めた方のエピソードを紹介します。

芋掘りの日のことです。芋づるがまだ乾かないうちに、造形サークルでリースを作ることになりました。Aさんは、いつもはスポーツサークルに行くことが多いのですが、「芋づるがリースになる」という話に興味をもち、初めて造形サークルに参加しました。葉っぱをちぎって、蔓をグルグルまいて・・・リースが出来て行きます。1つ作るごとにコツを掴み、上達していくAさん。最初から最後まで、楽しそうに作っていた姿が印象的でした。リースは、はちみつ全員分でき、各ホームの創作活動で使いました。その際に「このリースは造形サークルが作ってくれました」と伝えられると、Aさんは自慢げに「使ってよ」とみんなに渡してくれました。



実は何かをつくるのが好きだというAさん。ものづくりのセンスも抜群に良く、リース作りをきっかけに、造形サークルに参加されることが増えました。

造形サークルでは次のようなことを大切にしています。

- ・利用者の「好き」や「得意」を把握する
- ・利用者の描きたいもの、表現したいことを尊重する
- ・季節に合わせた内容、季節を感じられる内容とする
- ・材料やモチーフに周りの自然物を利用する
- ・ゴール＝「完成」よりもプロセス＝「制作過程」を大切にしていく
- ・新しいことにも挑戦し、利用者の新しい一面を引き出していく
- ・美しさや表現への理解を深め、アート(芸術)を追求していく



今後の造形サークルは、みんな一斉に同じことをするのではなく、一人ひとり好きな表現で制作する時間を充実させたいと考えております。具体的には、絵・工作・粘土・縫い物など、各自好きな方法で、一つの作品を継続的に制作するという事です。これからも、様々な造形表現を通して、利用者が自由に制作できる環境を整えていきたいと考えております。

5月には3回目となる作品展「Honey Come!!2023」も控えています。「アートは、言葉で表現することが難しい人にとって、社会や他者とのコミュニケーションツールとなり得る」という考えをもって、〈大切にしたいこと〉を心がけながら、取り組んで参ります。



2022 年度造形サークル実施記録

4月	ふるさとまつりTシャツ 用の絵を描く	10月	芋づるリース
5月	絵画(キャンバスにアクリル)	11月	クリスマスオーナメント
6月	手ぬぐい(シルクスクリーン)	12月	絵画(キャンバスにアクリル)
7月	七夕飾り ふるさとまつりアートパネル	1月	成人を祝う会装飾品 コマ
8月	ふるさとまつりアートパネル 手ぬぐい(染め物)	2月	大きな赤鬼
9月	壁面装飾:お月見	3月	絵画他自由制作

【スポーツサークル】

体を動かすことが大好きな方たちが集まるスポーツサークルは、「体力向上」と「仲間との交流を増やし、関係を深めること」を目的として活動しています。もちろん、一人ひとりのペースに合わせ、楽しむことが大前提です。活動内容としては、利用者の希望に添ってその時のプログラムを決めています。主に、晴天時は施設の隣の公園を大回りで3～5周ほどランニングをし、その後、サッカーやキャッチボール、リレーなどを行っています。また、雨天時は室内でダンスやヨガ、ストレッチなどに取り組んでいます。

No.1 仲間がいるから

スポーツサークルを通して、一緒に体を動かすことで利用者同士でのコミュニケーションもうまれ、関係が深まっていく。そのような姿も見ることができています。その姿を、エピソードとともに紹介したいと思います。以下は、ある日利用者から「どうしても鬼ごっこをみんなで行いたい！」との要望があり、鬼ごっこを行うこととなった時のエピソードです。

体を動かすことが大好きな A さん。しかしながら、なかなか気持ちが乗らずにベンチに座っている姿が多く見られていました。ただし、A さんは仲間たちが鬼ごっこを楽しんでいる姿を微笑みながら眺めていました。一緒に参加したい気持ちはあったようです。そうすると、それに気付いた利用者がベンチに座っている A さんのもとへ行き、一緒に鬼から逃げようと手を差し伸べてくれました。その後、気持ちも切り替わり、立ち上がると、今まで見たことのないスピードで公園を縦横無尽に駆け回っていました。そのときの A さんの表情はとてもキラキラした素敵な笑顔に溢れていました。

自分からだとなかなか 1 歩を踏み出せずにいた A さんでしたが、仲間が声をかけてくれたことによって参加することに決心がついたようです。また、利用者同士だからこそ生まれた表情も見られ、素敵な瞬間でした。今後も「仲間との交流を増やし、関係を深めること」を大切にしつつ、素敵な笑顔がたくさん見られるように取り組んでいきたいと思います。

【ボウリングサークル】

9 月より新しくボウリングサークルが出来ました。ボウリングの技術向上を目標に、室内で様々な活動を行いました。主に、手作りのピン作り、ボールを真っ直ぐ投げる練習、目標のピンを倒すコントロールの練習等、楽しく活動しています。

ボウリングが大好きな A さん。最初に、10 本のピンを倒す事を目標に行いましたが、倒す事が出来ませんでした。この日の練習は、1 本のピンを倒すコントロールの練習を行いました。目標を、1 本に絞り投げ方を伝えると見事に倒して目標達成。「やったー!!!」と喜んでいました。練習後、10 本のピンを倒す目標に戻して 2 回投げると見事、全てのピンを倒す事に成功。「ボウリング楽しい!」と話をしてくれました。

ボウリングサークルに参加するメンバーは決まってきており、前日から楽しみにされています。ボウリングは、倒したピンの多さで決まる競技です。エピソードの様に、最初は倒す事が出来ませんでした。練習をする事で目標を達成!利用者さんにとって目に見えて上達が分かりやすいと言えます。上達を実感する事が手応えとなり「楽しみ」となっているのではないのでしょうか。

コロナが落ち着いたら、実際にボウリング場へも行きたいと思います。それまでは、1 本でも多くピンを倒せるように上手に投げる、コントロールを良くする練習をし、今後は安定した投球フォームも身につけていきたいと考えております。

まとめ

私たちの生活には「健康」と「文化」が必要不可欠です。はちみつで過ごす時間のうち、サークルの時間で、利用者さんの生活の中の「健康」と「文化」を豊かにしています。これからも、利用者みなさんの楽しみが増えるよう、プログラムの充実を図って参ります。

04 | はたらくを ちいさの みんなと つくる

表題は、「はちみつ」の由来となる言葉です。この名の通り私たちは、地域の方と仕事・製品・イベントなどを創ってきました。代表的な取り組みとして、四街道市亀崎地域の伝統工芸品・亀崎箒があります。保全会の職人さんより、作り方を伝授して頂き継承しています。また、市内各所へ伺って行なっている、草取りや清掃などのボランティア活動も「はたらく（側楽）」を形にした取り組みと言えるのではないのでしょうか。今年度は、特にこの「はちみつ」を意識して取り組みました。以下に、ご紹介致します。

四街道ふるさとまつり・チャリティ T シャツ（はちみつ×四街道市）



四街道市最大の夏祭りが3年ぶりに再開されました。短縮開催の中、いくつかの新しい取り組みがあり、その一つがこのチャリティ T シャツです。



4月中旬頃、ふるさとまつり実行委員会より「お祭りを盛り上げるためにチャリティ T シャツを作りたい。はちみつのアートをデザインに使わせてくれないか」とご相談がありました。相談者は、私たちの作品展をご覧になられた市役所の職員さんでした。早速、創作活動で「祭」や「花火」をテーマに自由に絵や文字を描きました。選ばれた一点は「夏の夜空にあがる華やかな花火の姿が目に浮かびます。彩り豊かで自由な表現を感じるこの作品からはパワーが溢れています。」（ふるさとまつりチャリティ T シャツ紹介文より抜

粋）とご紹介いただきました。T シャツは5月末に注文販売開始、白・黒合わせて 891 枚が地域の皆さまの元へ届きました。

後日、鈴木陽介市長がお越しになり（写真）、T シャツの売り上げとして 267,000 円のご寄付をいただきました。鈴木市長さんは普段もこの T シャツを着てお仕事をされているとのことでした。はちみつのアートが地域を彩った事例としてはこれまでにない大きな取り組みとなりました。

よつつみ木（はちみつ×ちば木育コーディネーター）

千葉県農林水産部と「ちば木育コーディネーター」が協力して、千葉県産の木材を使ったおもちゃづくりを企画しています。今回、おもちゃコンサルタントであり「ちば木育コーディネーター」の遠藤祐子さん(yyu design)より、「よつつみ木」というおもちゃの制作をご依頼いただきました。お預かりした4種類の千葉県産木材（サンプスギ・サクラ・シラカシ・ヌルデいずれも認証材）を、指定の厚みで切り、ツルツルに仕上げるといいう仕事です。ノコギリとヤスリという私たちが積み重ねてきた仕事が活かされました。

「よつつみ木」は、令和4年10月に千葉県の認定を受け、令和5年度より注文販売が開始されます。



⇐ 遠藤さんと袋選びをする
タートルズ（活動にて）

ひみつのコラボポーチ（はちみつ×ひみつのおしゃれ工房）

四街道市大日にある「ひみつのおしゃれ工房」さんは、「子育てや介護、障がいなどさまざまな理由で外で働くことがむずかしい人たちに自宅で服作りのお手伝いをしてもらっている(HPより)」工房で、女性が多く働かれています。今回、機織り班クレインズが織った布を使って、一緒にポーチを制作しました。サイズや裏地など試作をして検討を重ね、ひみつのおしゃれ工房さんらしい色・素材の裏地をご提案頂くなど、はちみつだけでは作れなかったポップなポーチが完成しました。販売会でも好評で、増産する予定です。ポーチ以外にも新しい製品作りを進めて行きます。



ボランティア（さくらそう・くれよん・はっするファーム）



今年度も、毎月1回「日替わりシェフの店さくらそう」さん(鹿渡)へ、草取りや室内清掃に伺いました。担当の毛見さんは、いつも優しく迎えて下さいます。

⇐（さくらそう室内清掃）



↑（毛見さんと）

はっするファームさん(大日)より、今年も、ひまわりの種取りや大豆や小豆を選別するお仕事を頂きました。はっするファームさんは、ひまわり油や蜂蜜のラベルにはちみつアートを使って下さっています。最近注目されている、ノウフク(農業と福祉)連携に繋がる取り組みです。

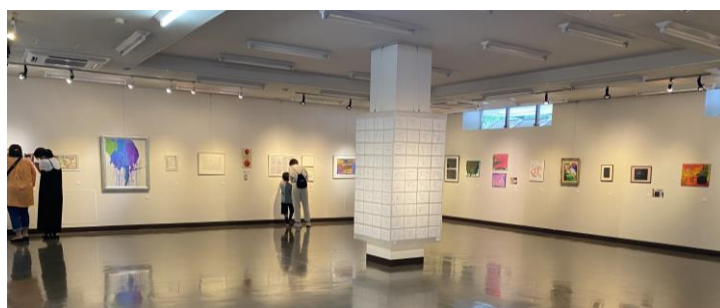


その他「四街道市児童デイサービスセンターくれよん」さん(和良比)への訪問も再開し、草取りなど行なっています。

Honey Come!! 2022

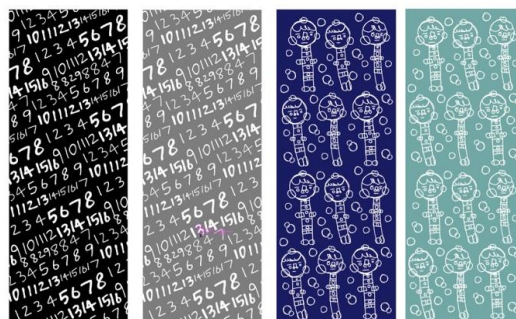
～日常(いま)ドラマティックは止まらない～

2022年5月31日(火)～6月5日(日) 四街道市民ギャラリー



6日間、計 340 名の方にご来場いただきました。今回も地域で活動するアートに携わる方々に、額装や展示のご協力を頂きました。お客様からは照明や作品の制作背景の説明パネルについてご好評いただきました。

「はちみつのアートを身近なものにしたい」という想いで、新しい製品作りを進めています。制作にはデザイナーの今村さんにご協力いただいています。今年度は、てぬぐいを出すことが出来ました。また、今村さんには手ぬぐいの帯や製品につける紙タグも制作して頂き、製品のバージョンアップに成功しています。今後も、はちみつアートを使った新製品を展開していきます。



2022 年度 主な取り組み

コラボ事業 ■ 四街道ふるさとまつりチャリティ T シャツ (四街道市)

コラボ製品 ■ 「ひみつのコラボポーチ」 (ひみつのおしゃれ工房様)

■ 「よつつみ木」 (ちば木育コーディネーター様)

■ 社会福祉法人いぶき福祉会様 (岐阜県) 「なかまカレンダー」

販売会

■ 4/2 (日) みどりがおか spring マルシェ@緑ヶ丘幼稚園

■ 5/21(土) 大きなテーブル@文化センター

■ 11/6 (日) Y・Y・KNOWON 秋まつり@四街道市吉岡

■ 11/26(土) ユニバーサル農業フェスタ@文化センター

■ 1/14(土) ノウフクマルシェ@上野公園噴水広場



05 | 職員研修

今年度の研修では、障がいがある利用者さんの権利擁護を中心に研修を行いました。障がいへの理解と利用者支援において「基本的な考え方を学んでいこう」ということで外部講師の方を多く招き、前年度と同様、月に1回職員研修を開催いたしました。

2022年度 職員研修実施一覧

月	テーマ
4月	障害支援区分について
5月	障害者基本法について
6月	意思（自己）決定支援について
7月	相談支援事業所について（外部講師）
8月	虐待防止について
9月	個別支援計画の作成について
10月	・感染症予防について ・虐待について（全職員参加）
11月	成人期のセクシュアリティについて（外部講師）
12月	環境と福祉について（外部講師）
1月	日頃の支援を振り返る
2月	災害時のはちみつとしての対応について
3月	法人理念と権利擁護について（全職員参加）

〈外部研修〉 介護職のための接遇マナー研修 . . . 2名

9月 ・『二次性徴を迎える前に』『人との距離感』 . . . 1名
 ・意思決定支援と虐待防止に関する研修会 . . . 1名
 ・『虐待防止・身体拘束についての基本理解と具体的準備・取り組み』 . . . 3名
 10月 ・発達保障講座『人間の尊厳・人権から考える障がい児・者への虐待・体罰問題』 . . . 5名
 11月 ・『職種をこえてつながるために』 . . . 1名
 ～社会的に孤立している家庭に切れ目のない支援をするためにどう連携するか～
 1月 ・障害児・者の性と生の支援について考える研修会 . . . 1名
 ～豊かな性と生をはぐくむために大切にしたいこと～
 2月 ・千葉県相談支援従事者等専門コース別研修『発達障害者への相談支援』 . . . 1名
 ・春の発達保障講座『人間の尊厳・人権から考える障がい者への虐待問題について』 . . . 2名
 ～社会福祉施設における虐待防止の取り組み～
 ・第2回障害福祉サービス等事業所研修会『強度行動障害の特性やその支援方法など』 . . . 1名

■障害者基本法について

障がい福祉の職員として仕事を行う上で知っておくべき知識だと思います。今回は障害者基本法の中から歴史や定義について学びました。法律が制定された時と現在を比較すると障がいがある人に対する社会的障壁が少しずつ減っていると感じました。しかし、その反面まだ解消されていないことも沢山あるんだなと思いました。知的障がいの分野だけでなく、身体障がいの分野も知ることができ勉強になりました。研修を行う中で、『選挙について』グループワークを行いました。どのような支援をしたらよいのか、行きやすい会場はどんな所なのか様々な意見がでました。私たちは支援をするだけでなく、もっと知識を得ていかないといけないと思えた研修でした。

■相談支援事業所について

NPO 法人希望の虹で相談支援専門員をされている津金幸太氏による『相談支援の基本姿勢とプロセス』に関する研修をオンラインで行いました。相談支援事業の実際の支援の流れを細かく教えて頂けたことは、9月の相談支援事業所『あわい』の開所に向けて大変勉強になりました。具体的な話を伺うことができ、理解を深めることができました。

■感染症予防について

施設の看護職員による『嘔吐物・排泄物の処理手順とてんかん発作時の対応について』学びました。嘔吐物・排泄物の処理の手順では実技を交えて防護服の着方や準備物を丁寧に教えていただきました。また発作時の対応では観察するポイントやどんな時に起こりやすいのか細かく説明して頂きました。頭で考えるだけでは覚えにくいですが、実技をやることでイメージしやすかったです。一年に一度だけでなく定期的に職員同士で見直し早期対応できるようにしていきたいと思います。

■成人期のセクシュアリティについて

東京で32年間、特別支援学校に養護教諭として勤務されていた任海園子先生を招き、『人間の性と生とは～性の発達に合わせた性教育～』について研修を行って頂きました。任海先生は現在、福祉施設の職員や障がいのあるお子さんをもつ保護者に向けて性教育の講義を行っています。特に人前でプライベートゾーンに触っている利用者さんの行動に対して、肯定的に捉えた支援の仕方や、性についての前向きな考え方が印象的でした。研修の中では事例を多く用いて話してくださり、今後の支援に活かせるようなわかりやすい講義で職員一人ひとりが考えるいい機会となりました。

■環境と福祉について

四街道市内で市民活動を幅広くやられている任海正衛先生を招いて、研修を行いました。任海先生は元教員で約30年教鞭をとっておりました。

『環境』と『福祉』というテーマは一見かけ離れている分野かと思います。私たちがどのように環境を意識し活動したらよいのか、また自然の中で育む人とひととの関係など、実は密接に関係しており、とても勉強になりました。ミツバチの生態についてのお話しもあり、「こんな授業だったら学校の勉強も楽しかったなあ」と、いう声が多く上がりました。

印象的であったのは、若い世代の人たちが環境や福祉に対して関心を持ち積極的に活動に参加していくことが大切であるということです。表題のテーマはもちろんですが、人間としての考え方を教えてもらった研修にもなりました。

06 | 行 事 報 告

2022 年度 年間行事・イベント実施一覧

月	行事内容	イベント
4 月	入所式	コンサート
5 月	ハイキング Honey Come !!	大きなテーブル タケノコ堀 梅シロップづくり
6 月		タケノコ堀
7 月	流さないそうめん	
8 月		スイカ割り
9 月	開所式	
10 月	運動会	
11 月	焼き芋	ユニバーサル農業フェスタ 紅葉狩り
12 月	お疲れ様パーティー 餅つき	
1 月	成人を祝う会 凧揚げ大会	
2 月	豆まき（節分）	バレンタイン
3 月	防災訓練	桜を見に行こう ホワイトデー 利用者さんお別れ会

ハイキング

今年度は「皆で楽しく歩こう」を目的とした「ハイキング」を行いました。

ハイキングコースは、以前のはちみつ（亀崎）から現在の社会福祉法人よつかいどう福祉会（たかおの杜）までの道のりです。天候にも恵まれ、畑道や花壇道を通り、声を掛け合い、励まし合いながら歩く姿、遅れている仲間を待って一緒に歩く姿が見られました。

3 グループに分かれてゴールのたかおの杜を目指しました。時間の関係でたどりつけないグループもありましたが、戻ってきた利用者さんのやり切った表情をしている姿が印象的でした。



運 動 会

9月から新しいはちみつになり、つきのわ・はちみつの仲間達が一堂に会して3つのホームに分かれました。ホームの中には知っている人もいれば深くは知らない人もいて、お互いに緊張や不安を抱えていたのではないかと思います。そのような中で2か月程経った頃に運動会は行われました。この運動会の目的は「各ホームの団結やはちみつ全体の交流が深まること、一人一人に活躍の場を」というものでした。初めての運動会でどのような姿が見られたのか…エピソードとともに紹介させていただきます。

No.1 一人の活躍がみんなを一つに

激しい動きが難しい方にも活躍の場をという考えから、競技の1つとしてくじ引きを行いました。この競技ではホームやはちみつ全体の団結を感じられる場面がありました。

あるホームの代表になった A さん。普段はゆっくりと過ごされていますが、この時ばかりは違いました。3本中1本しかない当たりを見事に引き当てたのです。『やったー！』同じホームの仲間達が歓声をあげます。そして2回目・3回目とくじを引くと、またまた A さんが当たりを引きました。すると同じホームだけではなくはちみつの仲間達からも『おー！』と喜びの歓声。ホームへ貢献しただけではなく、はちみつ全体を喜びに包んでくださった A さんでした。

たとえどのような障がいがあっても、皆それぞれ出来ること・好きなこと・得意なことがあると考えております。A さんは物をつかむことができるということから、くじ引きなら活躍できるのではないかと考え、代表に選ばれていました。これからも、一人一人の出来ることに目を向けて、どのようにすれば活躍できるのかを考え、支援に取り組んでいきたいと思います。また、多くの活動や行事などを通じて、出来ることを発見し、新しい姿がたくさん見られるように努めて参ります。



おつかれさまパーティー

おつかれさまパーティーとは、一年の労をみんなで労い合うパーティーです。支えてくれたボランティアさんに「ありがとう」と感謝を伝える場でもあります。今年はお昼ご飯を提供してくださっている『NPO 法人希望の虹』の方もお招きしました。

今年もおつかれさまパーティー実行委員会を立ち上げました。各ホームで食べたい物や飲みたい物を聞き、実行委員たちで最終決定をして、買い出しや会場準備を行いました。また、今年の実行委員が司会・進行を務めました。ビンゴでは、司会のAさんが数字を読み上げるのですが、野球が大好きなAさんは「何番は〇〇選手！」と背番号を発表し、みんなに「良く知っているね！！」「数を言って下さい！」とツッコまれながら、暖かい雰囲気でも盛り上がりました。

昼食は、それぞれのホームごとのテーブルに分かれてごちそうを囲みました。食事の途中に希望の虹さんから、このパーティーに招待してくれたことへの感謝のお手紙を読み上げていただきました。私たちと希望の虹さんは普段は、なかなか関わることはないのですがパーティーを通して、一緒にご飯を食べることで心の距離が近くなったようで、嬉しく思います。

午後は3ホーム対抗のボウリング大会を行いました。みんな自分のホームを大きい声で応援しており、ホームとして仲が深まったボウリング大会でした。

実行委員のメンバーの中には、実行委員を組織した時から、楽しみで待ちきれない方や、楽しいおつかれさまパーティーにするために、一生懸命考えている方もいました。他の利用者でも、興奮して眠れない方や前日準備からテンションが上がっている方もいらっしゃいました。コロナ禍ということもあり、今年も開催出来るか不安でしたが、無事に皆揃い楽しい時を過ごすことができ、嬉しく思いました。

来年もまた全員で楽しく、最高の思い出が作れればと思います！

07 | 健康管理

2022年度はちみつ保健計画

4月		7月		10月		1月	健康診断
5月		8月		11月	予防接種	2月	
6月		9月		12月	健康診断	3月	

・嘱託医、随時相談 ・体調チェックシートの実施 ・体重測定（月1回）

インフルエンザ予防接種（11月）

協力医療機関の『もねの里クリニック』のご配慮により、はちみつで行いました。利用者は普段と変わらない環境で、安心して受けることができました。

健康診断（１２月・令和５年１月）

協力医療機関『もねの里クリニック』で、１２月～令和５年１月の３日間で健康診断を実施しました。採血については苦手な方もいらっしゃる為、クリニックの方がはちみつに來所する形で実施しています。残りの健康診断項目については、各ホーム毎１２月～令和５年１月の３日間に渡り、クリニックのご協力をいただきクリニックの休憩時間に貸し切りで健康診断を実施しました。

感染症予防

今年度もマスクの着用・手洗い・消毒・室内の換気を徹底し以下の内容を実施しています。

- ・検温の実施（登所時・昼）
- ・体調チェックシートでの状態把握
- ・マスクの着用、手洗い・消毒の徹底
- ・施設内、車内、コップ等の消毒に実施（毎日）
- ・嘔吐処理ボックスの設置
- ・感染症予防研修（嘔吐処理について）

服薬管理

- ・服薬状況について把握する為、依頼書を提出していただき、服薬の変更があった場合は、ご家族から連絡をいただけるよう依頼しています。
- ・てんかん発作時及び体調不良時の対応については、「医療的ケアに関する指示書」を主治医に記入してもらい提出していただき、医療的ケアである座薬挿肛や頓服薬の投与を実施しています。
- ・処方箋薬のセット及び配薬については、看護師による薬セット時と配薬時のダブルチェックに加え、投与者のトリプルチェックまで行い、飲み忘れや誤薬がないように行っています。
- ・薬品管理については、施錠可能な場所で保管し、誤飲等事故が起こらないように注意しています。
- ・災害時用の予備薬を希望者のみ医務室にて保管しています。

医務の取り組み

- 利用者と職員の健康管理と保健衛生管理に努めます。
 - ・体調不良時の対応
 - ・怪我の処置
 - ・バイタルサインの測定
 - ・てんかん発作時の対応
 - ・感染症発生時の対応
 - ・誤嚥時の対応
 - ・スキントラブルの対応
 - ・保清（爪切り、耳垢除去、足浴等）
- 利用者の安全・安楽・安心を心掛けます。
 - ・寄り添いの姿勢と心
 - ・声掛けと傾聴
 - ・安全意識

08 | 利 用 状 況

(令和 5 年 3 月 31 日現在)

出席率

4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	年間
96.3	96.1	97.0	96.1	93.6	91.6	95.4	95.6	89.5	96.0	95.5	91.4	97.6%
22	23	22	23	23	22	23	22	22	22	20	23	267 日

※ 8 月までは特定非営利活動法人はちみつの実績を計上

利用者状況

年齢別構成

年齢	20 歳未満	20～29	30～39	40～49	50～59	60 歳以上
男性	2	16	0	1	4	0
女性	0	2	1	3	4	0
合計	2	18	1	4	8	0

療育手帳別構成

	㊤	B2	B1	A2	A1	㊤1	㊤2
男性	2	0	0	0	12	4	4
女性	1	1	1	0	3	0	2
合計	3	1	1	0	15	4	6

身体障害者手帳 1 種 1 級所持 1 名 3 級 1 名 6 級所持 1 名

精神保健福祉手帳 1 級所持 3 名

障害支援区分

区分	6	5	4	3
男性	11	7	5	0
女性	4	4	2	0
合計	15 人	11 人	7 人	0 人

居住地

四街道市在住 25 名 (1 名 2 月 28 日退所) 千葉市在住 6 名 佐倉市在住 2 名

09 | 2022 年度 社会福祉法人よつかいどう福祉会

事業計画

1 役員会の開催等

開催時期	主な議題
2022 年 7 月	・ 建物の竣工及び引き渡し
2022 年 9 月	・ 生活介護はちみつの開所
2022 年 10 月	・ 建設工事の入札又は契約結果について、その他
2022 年 10 月	・ 定款及びその他規定の変更について（理事会・評議員会開催）
2022 年 12 月	・ 事業の運営報告及び中長期計画について（理事会開催）
2023 年 3 月	・ 事業報告、予算案について（理事会開催・評議員会開催）
2023 年 5 月	・ 定時評議員会開催

上記の他、定款に定められた議決事項及び重要事項を審議するため、適宜役員会を開催する。

2 法人の事務処理

法人の事務処理は、理事長職務代理者がおこなう。

3 資金計画

特定非営利活動法人はちみつを 8 月 31 日付で解散し、同法人の資産及び財産のすべてを社会福祉法人よつかいどう福祉会に速やかに移譲する。

独立行政法人福祉医療機構及び京葉銀行からの融資を受け下記計画を実施する。

4 施設整備計画

社会福祉法人よつかいどう福祉会四街道市たかおの杜指定生活介護施設の建設

- 1 構造 準耐火 鉄骨造
- 2 建築面積 525.82 m²
- 3 延床面積 496.88 m²
- 4 令和 4 年 7 月 2 0 日竣工（予定） 同月 2 5 日引き渡し（予定） 8 月中引越し

5 施設設備整備の資金計画

①	総事業費	172,447,000 円
	建築工事費	164,923,000 円
	設計管理費	5,214,000 円
	設備備品整備費	2,310,000 円
②	財源内訳	
	福祉医療機構借入金	155,000,000 円
	銀行その他借入金	15,000,000 円
	自己資金	2,447,000 円
	財源合計	172,447,000 円

2022 年度 生活介護はちみつ 事業計画

I 趣旨

昨年度は、年度途中に定員を 29 名に増やし急な希望者の受け入れを行うなどの対応を行い運営致しました。今年度からは定員を 31 名に増員致します。特別支援学校を卒業し通所される方が 2 名、計 31 名の方が在籍することになります。当施設も 6 年目を迎え、令和 4 年 9 月から『社会福祉法人よつかいどう福祉会』として新たに法人格が変わりスタート致します。昨年度は新型コロナウイルス感染拡大の収束の見通しが立たない状況下での運営でした。そんな中でも、利用者は遅しく、元気に当施設で毎日を過ごす姿がとても印象的でした。感染症拡大の影響もあり、『はちみつ・つきのわ』の施設を完全に分け、送迎車においてもできる限り分けて支援をさせて頂きました。利用者及びご家族のご協力がなければ、この体制で行うことが出来なかったと思います。深く感謝申し上げます。

当法人及び当施設は、コロナ陽性者を出さない意識は徹底しておりましたが、いつどこで罹患するか分からない感染症に対して、濃厚接触者を出来る限り出さないという方針（BCP）のもと運営致しました。感染症への意識は引き続き高めつつ、利用者が安心、安全な生活を送ることが出来るよう努めていきたいと思っております。

今年度 9 月 1 日から社会福祉法人よつかいどう福祉会として、今行っている活動に移行し、運営母体が変わります。現在は、新施設の建築を着工しており、施設も一つにまとめて活動を展開する予定です。社会福祉事業は必要な事業です。必要な時に、必要な方たちが、必要な支援を受けられる社会資源として、『特定非営利活動法人はちみつ』から『社会福祉法人よつかいどう福祉会』に屋号を変え、社会福祉事業の価値を見出していききたいと思えます。

事業基本理念

- ・地域で、普通の、人としての生活を送ることができるよう支援する。
- ・地域の中で、地域のために、地域に必要とされる（愛される）施設を目指す。

支援方針

- ・人格、人権の尊重をすべての支援活動の基本とする。
- ・利用者自らの生活を自らの意思で選択・決定できるよう、可能な限り本人の意思を尊重し自己決定できるように支援する。また、その中で各々の自己実現が図れるように支援する。
- ・地域に開かれた施設、地域に必要な施設となることを目指す。

支援方法

- ・安心、安全な生活が送れるよう支援することを基本とする。
- ・三間しょう（時間・空間・人間）の視点を持って支援することを基本とする。
- ・得意な所に目を向け、苦手な所に手を当てる支援を基本とする。
- ・周りの人を楽にすることが本当の意味で側楽（はたらく）ということを支援の基本とする。
- ・一人ひとりの長期的及び短期的支援目標を設定し取り組む。目標設定に際しては、本人及び家族との協議を行い一体的な支援を基本とする。
- ・本人への支援と一緒に、家族への支援も同時に支援する。
- ・支援の重点目標を設定し、支援方法を確立する。

Ⅱ 事業計画

- | | | |
|---|-----------|--|
| 1 | 定員 | 35名以下 |
| 2 | 職員 | |
| | 管理者 | 1名（兼務可） |
| | サービス管理責任者 | 1名以上（兼務可） |
| | 生活支援員 | 1名以上（常勤11名、非常勤17名在職） |
| | 看護職員 | 1名以上（非常勤2名在職） |
| | 医師 | 必要数（嘱託医） |
| 3 | 支援態勢 | 安全対策を前提にし、利用者が安心して楽しい生活が送れるよう、
創意工夫し生活の中で充実感をもてるように、作業での手ごたえや
仲間との関わり、地域貢献活動を大切にし、生活の場を構築することを目指す。 |

III 重点目標

1 支援や取り組みの充実

支援方法を基本におき、利用者が主体的な活動を通して、手ごたえを感じられるよう支援し取り組む。さらに、集団の発達の視点をもって支援し取り組む

ホーム

一人ひとりの居場所をつくり、役割を通して、手ごたえを感じてもらえるように支援する

生産活動

■ タートルズ（木工・箒）

作業工程を見直し、側楽を充実させ、利用者ができる作業を通して手応えを感じてもらえるように支援する

■ クレイNZ（織物）

一人ひとりの仕事を確立し、織物製品の質の向上を図る

■ ゴーツ（清掃）

側楽(はたらく)仕組みを作り、利用者一人ひとりに手ごたえを感じてもらえるように支援する

2 家族支援

利用者支援に留まらず、家族に対しても寄り添った支援を行う。また、利用者支援のための連携や、情報交換ができる場をつくり、支え合える体制を構築する

3 職員研修

職員の質の向上を目的に、毎月一回以上の研修を行う。また、外部の研修も定期的に参加し、自己啓発に努める

4 他事業、他法人との連携

他事業所、他団体と合同のイベントの企画やイベントの参加など、外部との繋がりを持ち、地域に対して福祉事業等を啓蒙する活動を行う

5 ボランティア活動

地域の中で、利用者が主になってボランティア活動を行い、地域のために活躍し、手ごたえを感じられるよう支援する。また同時に、法人職員も地域に貢献するように努める

10 | 2022 年度 社会福祉法人よつかいどう福祉会

事業報告

1 役員会の開催等

令和4年度 理事会開催状況

日付	議案	出席状況
令和4年5月22日	1号議案 2021年度事業報告、2021年度決算報告の件 2号議案 2022年度予算案の件 3号議案 2022年度事業計画案の件 4号議案 定款変更の件	8名中8名 (内1名同意書、 書面表決書有)
令和4年7月10日	1号議案 定款変更に伴う臨時評議員会開催について	8名中8名出席
令和4年11月1日	1号議案 事業の経過報告について 2号議案 今後の事業展開について 3号議案 評議員の選任解任について 4号議案 監事の解任と選任について 5号議案 役員及び評議員等の報酬並びに費用に関する規定について	8名中7名 (内1名同意書、 書面表決書有)
令和5年2月21日	1号議案 令和5年度 予算案について 2号議案 令和5年度 事業計画案及び研修計画案について 3号議案 監査報告の結果について 4号議案 臨時評議員会及び定時評議員会開催について	8名中8名 (内1名同意書、 書面表決有)

令和4年度 評議員会開催状況

日付	議案	出席状況
令和4年5月29日	第1号議案 2021年度事業報告、2021年度決算報告の件 第2号議案 2022年度予算案の件 第3号議案 2022年度事業計画案の件 第4号議案 定款変更の件	0名/7名中出席 (書面表決及び 同意書7名有)
令和4年7月10日	第1号議案 定款一部変更の件 第2号議案 議事録署名人の選任に関する事項	7名/7名中
令和4年11月20日	第1号議案 事業経過報告について 第2号議案 事業計画について 第3号議案 評議員の解任・選任について 第4号議案 役員報酬について 第5号議案 監事の解任・選任について	7名/7名中
令和5年3月21日	1号議案 令和5年度 予算案について 2号議案 令和4年度 定時評議員会の開催について	9名/9名中同意 書、書面表決有

2 法人の総合的な取り組み

組織運営・経営

2022年度9月1日より社会福祉法人よつかいどう福祉会として、生活介護はちみつ、相談支援事業あわいの運営を開始致しました。12月には法人監査を行いました。大きな指導はございませんでした。引き続き厳密かつ透明性をもって運営していくと共に、利用者やご家族に寄り添った運営を行っていきたいと思います。母体となる生活介護事業においては、ご家族や利用者、職員が一体となって協力していただいたおかげで、スムーズな移行ができたと思います。心から感謝申し上げます。

ア. 虐待防止委員会等の開催、運営について

利用者の尊厳と人権擁護の観点から、既存の各会議、委員会、外部委員と共に虐待防止等の取り組みについて広く検証し、改善に努めることを目的とする委員会を3回開催した。日々の取り組みの中で生じている状況等を伝え、検証・改善に向けて委員の方たちも「自分事」として捉え委員会の運営ができた。委員会が形骸化しないよう、引き続き取り組んでいく。

イ. 虐待防止に関する研修の参加と内部研修の強化

虐待防止マニュアル作成や虐待防止については、これまで取り組んできたが、虐待防止委員会の設置の義務化等に伴い、再度整備を図った。

虐待防止の研修は、年間で最低でも1回の頻度で行ってきたが（特定非営利活動法人はちみつから起算して）、令和4年度も引き続き研修を行うとともに、全職員（事務職も含む）を対象にした研修実施した。外部研修には積極的に参加し、「虐待防止、身体拘束等」の適正化を推進するための指針を改めて確認し、個別支援計画や面談等に導入し整備を行った。

ウ. 事業継続計画（BCP）感染症、自然災害の策定について

法人としての事業継続計画（BCP）を策定した。計画の中では、基本方針や優先継続業務の明確化、各事業所での役割や初動対応について整備をした。コロナ感染時の対応状況等の経験を踏まえると、感染時の人員・応援体制等については感染拡大予防や環境整備等々において、マニュアル通りでは難しい状況も想定された。9月頃の当法人施設でおきたコロナ感染状況を振り返り、BCPの改善を積み重ねていく。自然災害におけるBCPにおいても同様に策定し、今後改善を積み重ねてく。また、四街道市と福祉避難所の協定を結ぶことになった。災害時には、利用者や避難される方の安全を第一に運営していくことになる。

エ. 人事考課による評価について

人事考課の運用により、正規職員が自ら設定した仕事の目標を定め実施している。進捗や振り返りを含めコミュニケーションの場面を持つよう行った。職員の一人ひとりとの面談は日頃の利用者支援の質の向上や確認等にも繋がる貴重な時間だと思われる。リモートワークを推進している企業も多いかと思うが、利用者を直接支援をする職務はリモートではできない職種である。そのため今だからこそ、職員各々の仕事に向き合う姿勢であったり、仕事に対する意欲を評価に繋げていきたい。この評価が「育成・評価・処遇」に相互に関連し合える仕組みになるよう引き続き取り組んでいきたい。

11 | 相談支援事業 あ わ い

櫻井美紗都 市川洋子

あわいは社会福祉法人よつかいどう福祉会の立ち上げに伴い、2022年9月に開所いたしました。相談支援事業所としてはまだ経験の浅い私たちですが、少しずつ私たちに相談支援をお願いしたいと言ってくれる方々ができてくださり、はりきって業務にいらしてしております。

相談支援で大切なのは、なんといっても利用者、ご家族との関係づくりです。信頼していただけるように、何でも相談していただける関係を築くことができるように、日々のかかわりを大切にしています。お話をじっくりとかがうこと、きめ細やかな対応をしていくことを心掛けております。

実際にサービスを提供してくださる、地域の事業者様とのつながりも大切です。コロナ禍のなかではありますが、あいさつ回りなどを通して、顔の見える関係づくりをしてまいります。また、四街道市主催の相談支援事業所連絡会に参加し、他の相談支援所の方々と関係をつくりつつ、新しい情報の収集をしています。

今年度あわいは、よつかいどう福祉会内で「虐待防止と身体拘束に関する研修」を行いました。研修の準備のために資料を集めたり、外部研修に参加することで、あわいのスタッフ自身にとってとても勉強になる経験でした。

また、外部の主催の研修にも積極的に参加しています。9月から12月までの間に、4つの外部研修に参加することで、自分たちの経験のみでは得られない、ものの見方や考え方、知識や情報を得ることができました。また、新しい人との出会いもありました。研修で得たことを、あわいでの業務に生かせるように、意識を持って積極的に外部研修に参加しています。

私たちあわいは、これからも利用者のご家族の気持ちに沿い、地域で豊かな生活を送っていくことができるように、支援してまいります。

